



寄付金を活用した地域による地域のためのまちづくり



▲発足会の様子

会員に健康づくり、生きがいづくりをしてほしい。カラオケによる交流を通して、地域にひとつでも笑顔が増えてほしい」と語りました。

下山地域まちづくり推進協議会が令和元年度にトヨタ自動車（株）から地域振興を目的に2,000万円の寄付を受け、防災ラジオの全戸配布など活用事業を進めています。

今年度は、子ども会の活動備品をはじめ4件の活用事業を採択しました。

10月11日（木）に事業のひとつである下山地区高齢者クラブ連合会の「カラオケ設備購入による高齢者の生きがい及び健康づくり」に関して発足会が行われました。清水会長は「これを機に多くの



トヨタ工業学園生の労をねぎらい、交流会を開催

10月14日（金）、今年度最後の地域貢献活動を大沼自治区はじめ3団体が受け入れました。活動後、大沼発展会の協力のもと、洞樹院（大沼町）で、学園生と地域住民が交流会を行い、一年間の活動を労うとともに交流を深めました。

トヨタ工業学園専門部生の今年度のテーマは「利他の心」。活動を通して、地域の方と交流することでその考えが浸透し、多くの学びを得る機会となりました。

また、10月6、7日には三河湖周辺でスポGOMI大会を行い、湖畔の景色を楽しみながらごみを拾いました。

今後もトヨタ工業学園をはじめ関係人口の受入による地域課題の解決を進めていきます。



▲交流会の様子



▲スポGOMI大会の様子





令和5年度わくわく事業補助金に関するお知らせ

令和5年度の下山地区わくわく事業の募集がまもなく始まります。
募集は12～1月受付、2～3月審査会を予定しています。

「わくわく事業」は、地域資源を活用し、地域課題の解決や地域の活性化に取り組む団体を支援する制度です。

「わたしたちの地域はわたしたちの手で、もっと住みよく、暮らしよく」を合言葉に、まちづくり活動を始めてみませんか？

下山支所では申請に向けた事前相談を随時受け付けています。お気軽にご相談ください。



▲令和4年度活動団体「花一・よらまい会」



わくわく事業団体の活動紹介

10月8日（土）、しもやまるしえ実行委員会が、（株）香恋の里と共催で「第3回しもやまるしえ」を香恋の館で行いました。33店舗が出店し、アーティストによるライブ演奏や箸づくり体験など多くのにぎわいを見せていました。

祖父江代表コメント「天候にも恵まれ、無事開催できてよかったです。様々なジャンルのお店が揃い、来場者に喜んでいただけました。今回は、スタッフを公募して地元有志が集い、新たなつながりも生まれました。下山を好きになってもらえるイベントにしたいです。応援を宜しくお願いします。」

▼カラフルな綿あめ屋



▼動物の餌やり体験



▼箸づくり体験



巴ヶ丘小学校が「紙コップでまちづくり」を通じた交流を開催

10月21日（金）、巴ヶ丘小学校が大沼・花山小学校の特別支援学級の児童を招いて「紙コップでまちづくり」を行いました。

当日は、巴ヶ丘小学校の室内運動場に集まり、学年別、チーム別などに分かれ、紙コップで様々な形を作り上げました。

3小学校の特別支援学級の児童たちは、普段とは違う雰囲気の中で協力して1つの作品を作りあげる面白さを体感し、楽しみながら交流を深めました。

各小学校に呼びかけた巴ヶ丘小学校柴田先生は「今後も様々な活動を通して、児童たちが交流する機会を作っていきたい」と話しました。



▲活動の様子



▲特別支援学級の児童たちの作品



心と体のリフレッシュ！森ヨガ体験会を開催



▲森ヨガ体験の様子

10月1日（土）に「森ヨガ体験会in三河湖園地」を開催しました。14人が参加し、森歩きとヨガを通じて、心と体をリフレッシュしてもらいました。

参加者は「景色の良い場所で風を感じながら、ヨガができた」「鳥の鳴き声や風の音、雲の流れていく空の変化を見ながらできて、心地よかった」と話していました。

このイベントは、三河湖園地を活用する事業の一環で、地域内の講師と事業者の協力を得て、試行しました。

結果を踏まえて地域との共働事業に活かしていきます。



安心安全なまちづくりに向けて地域と警察が連携

足助警察署が中山間地域の防犯意識を高め、防犯のまちづくりを活性化させるために「安心・安全モデル地区事業」を始め、開始初年の今年度は大沼・花山自治区が選ばれました。10月12日（火）に委嘱式を行い、両区長が委嘱状を受け取りました。

生活安全課佐藤警部補は「安全なまちづくりを活性化させるため、防犯インフラづくりを積極的に進めるモデル地区を選定した。警察、防犯ボランティアなどが地域と連携し、防犯活動への意識活性化につなげたい」と語りました。



▲委嘱式の様子



下山地区体育大会でWRCをPRしました！

10月9日（日）、しもやまラリーイベント実行委員会が第73回下山地区体育大会で、世界ラリー選手権（WRC）のPRを行いました。

当日は、ラリーデザインにラッピングした軽トラ4台の展示や缶バッチ製作を行うなど子どもから大人まで多くの人を楽しみ、ラリーへの親しみを感じた様子でした。

また、わくわく事業の一環として、ラリーカーのデモ走行も行い、目の前をラリーカーが疾走する姿に会場は大盛り上がりでした。

川合晃司委員は「ラッピング軽トラを見つけたら、手を振ってあげてください。運転手が喜びます。」とのことでした。



▲ラリーカーと記念撮影



▲デモ走行の様子



▲ラッピング軽トラ大集合



身体も心も元気で暮らそう



健康・福祉

☆人生100年時代☆

住み慣れた地域で暮らし続けるために支えます！

○介護の伴走者になります！『まどいの丘ケアプランセンター』

まどいの丘ケアプランセンターは、介護保険認定で「要介護1～5」の認定を受けた方が、在宅で適切な介護保険サービスを利用できるよう調整する“介護支援専門員（ケアマネジャー）”が在籍する事業所です。

ご利用される方が少しでも長く住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、またご本人、ご家族ともに前向きに生きていけるようご支援いたします。介護保険サービスの申請や利用についてのご相談は、まどいの丘ケアプランセンターまたは下山地区の高齢者相談窓口『まどいの丘包括支援センター』までお願いいたします。

10月より職員体制が変わりました！



まどいの丘ケアプランセンター TEL 90-4005

○まどいの丘デイサービスセンターよりお知らせ



まどいの丘デイサービスセンターでは、介護が必要になったとしても利用者に寄り添い、自立支援・重度化防止の取組の推進として、いつまでも自分の足で元気に歩きたい思いをかなえるために『歩行アシストロボット』を導入します。

「歩きたい！」の願いをかなえる歩行トレーニングロボットは、一人ひとりに合わせて運動負荷トレーニングプランで効率的な歩行運動を実現します。

また、健康寿命・幸福寿命を延ばし、自立した高齢者を増やすには、生活機能の低下を早期に発見して進行を防止するために、要介護となる前から介入することも大切です。

住み慣れた街やご自宅で生活し続けるために必須である“移動する能力”をロボットと職員力で徹底サポートし、日常生活や社会参加への自信と意欲を取り戻してもらえよう、介護予防にもしっかりと取り組んでいます。



地域福祉・施設管理担当主査 いそむら 磯村 かん 完



10月より新規採用職員として勤務することになりました。まだ分からないことが多いですが、多くの方に顔を覚えて頂けるよう取り組んでいきます。よろしくお願いします。



下山交流館だより

連絡先：TEL0565-91-1650 / FAX0565-91-1030
 H P : <http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>
 開館：午前9時～午後9時
 休館日：月曜日
 (祝日、振替休日を除く)



講座報告



親子講座③ 「親子ヨガ」

9月28日(水)

初めてヨガを体験する親子もいましたが、無理なく親子でできるヨガを行いました。

参加者からは「ヨガでリフレッシュできた。」
「親子で一緒にできたのが嬉しかった。」などの声がありました。

参加親子 5組



次回の親子講座④は「乳幼児からの性教育」です。

日時：11月30日(水) 10:30～11:30
ご参加お待ちしております。お楽しみに♪

リクエスト募集!

親子でやってみたいことなど
お気軽にお声掛けください。

お知らせ

テストコース見学会 公開抽選会

応募多数
により

10月12日(水)

定員 240 人に対し
163組 398人応募があり、
佐藤下山支所長、各
自治区長の協力のもと
抽選会を行いました。



大沼小学校 2年生交流館探検!

10月12日(水)

交流館についての質問がたくさん寄せられました。自主グループ「書架係」の根本さんの読み聞かせがあり、帰りには除草ヤギとささゆりの丘を見学しました。



自主グループ 書架係 活動報告

読書の秋ですね。

書架係の皆さんが紅葉した葉っぱをたくさん作ってくれました。図書室が秋の装いになりました。



学生の方へ無料開放!

学生の方を対象に利用のない部屋を無料開放しています。ご利用の方は窓口にお申し出ください。

利用時間 午前9時～午後8時

(中学生以下は午後5時まで)

令和5年下山地区二十歳のつどい

日時：令和5年1月8日(日) 午前11時から
会場：下山基幹集落センター (受付10時15分～)
対象：平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの方

※詳細は広報とよた11月号に掲載または豊田市のホームページをご覧ください。

ロビー展示

次井みな子さん(和布小物)

平井里美さん(趣味の小物)

12月1日～25日まで

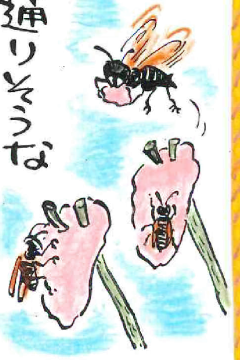
へボ捕り

絵と文
あまのり sumi



秋になつて山の風の通り道に空を見上げてたたずんでいる人を見たら「へボ捕り」かもしおこさよ。
へボは土手に巣を作る食用のクロズメバチのこども。

へボめしは下土の名物だし下土生まれならへボ捕りの楽さかく話こくを
知る人は多いとは思いますが昆虫食が
言われる今、伝統の昆虫食へボを
また見たらとなにちがひ手といふ方に
じいちゃん達がいかにも楽しく作り
夢中で捕っているかお伝えします。



① まずへボが通りそうな所へ鶏・魚・カエルの肉を木につけてへボを待つよ。へボは見つけた肉を丸めて巣へ持ち帰りすぐ戻ってくる。その時間と方向をよく見ると巣の近き方向・仲間の匂いが分かるよ。

② へボが捕り中になつて肉を運びよつたら、なつたら、良々となつた方角から来るへボにひまひま縄をつけるよ。



縄のせいに肉をつける
(いゆわと軽く作るのがコツ)

肉に取りついて夢中になつてへボにお腹の下から指先につけた縄の肉をオコ入れて持たせておくとへボは縄をぶら下げて飛び立つよ。

③ へボが飛び立つたらダッシュで縄を目印に追いかける。見失した所に見張りを立ててまた飛ばしてダッシュ

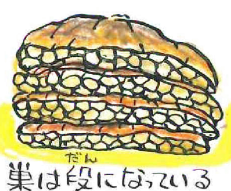


④ 待ちぶせとダッシュをくり返して巣の入口が見つかると見つけた巣の入口には、した縄が並べたかきも...



⑤ 巣の入口から煙でいぶしてへボの動きを止めたら、掘った土の中の巣を取り出す。

へボは土のこぼれを食べて煮るく香ばしい...



巣は段になっている